

広島別院だより

Vol.33
夏号真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

非核非戦法会 兼原爆死没者追弔会 厳修

兼原爆死没者追弔会

厳修

七月六日、「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」が勤められました。庄原市の寺川大雅師(芸備組西願寺)が「『非』をたずねる」というテーマで法話をされました。以下、抄録です。

●非とは「これでよいのか」という問い

非核非戦法会が最初に勤められた当時、この法要を始めた先輩方は親鸞聖人の「非僧非俗」という言葉を手懸りにしたと聞く。

「非僧非俗」(僧に非ず、俗に非ず)とは聖人が念仏の弾圧により僧籍を奪われ、俗人として越後に流された際に語られた言葉である。「非僧」とは國家の認める僧侶ではなく、「非俗」とは仏道を捨てた俗人でもないという意味である。

ただし、これは仏道や世間に對して、無関心・

無関係でいるということではない。僧侶であつても俗人であつても常に「私は本当にこれでよいのか」と自らを課題とし、問い合わせることであり、「これが親鸞聖人の言われる「非」ということなのである。



講師：寺川大雅 師

●自らの平和を問う

「非僧非俗」とは「僧」と「俗」という反対概念を同時に課題としている。それを基に「非核非戦」を問うならば、「核・戦」の反対概念は「平和」というべきであろう。ならば、「非僧非俗」を根拠として「非核非戦」を問う時、「平和」をも課題となる。私たちが「平和だ」と思っていることは本

つて仏道を生きよという言葉であった。人生の喜びや悲しみをしつかりと受け止め仏道に生きることこそ、本当の仏教であると感得されたのである。後に語られる「非僧非俗」という言葉は人としての生活を無視することなく、ひとりの仏弟子として自らの生き方を問い合わせることに真の仏道を見出した言葉なのである。



真宗基礎講座

七月三日に真宗基礎講座が開催されました。コロナ禍のため中止となつた講座の追加講座としての開催です。親鸞聖人の御生涯を通して浄土真宗の教えを学ぶ講座もいよいよ終盤ですが、今回は、親鸞聖人の長男である善鸞の起こしたスキヤンダルにより初期真宗教団に大混乱を招いた「善鸞義絶事件」についてのお話でした。八月二十一日の最終回には是非ともご参加ください。

謗中傷・いじめ等、いのちを傷つけ事柄が沢山ある。それを見て見ぬふりをして成り立つ平和があるのか。 秩尊が「天下和順・国豊民安・兵戈無用」(天下和順し・国豊かに民安し・兵戈用いることなし)と教えられた浄土のありようから、私たちは折に触れてその教えを聞き、学ぶべきであろう。

親鸞聖人の「非僧非俗」という生き様から、「非核非戦」を憶つ(おもつ)ことが大切なではないだろうか。

広島別院明信院

輪番交代のお知らせ



鷲野大輔教務所長
(広島別院明信院輪番)

このたび、六月三十日付で山陽教務所長並びに広島別院明信院輪番を拝命いたしました鷲野大輔(なぎのだいすけ)と申しします。出身は岡崎教区(愛知県西尾市)、前任地は首都圏における宗派の拠点「東本願寺真宗会館」にある東京宗務出張所の次長でありました。

もとより非力かつ浅学菲才の若輩の身であり、私には身に余る重責でございますが、広島別院並びに山陽教区同朋会館広島が、地域に開かれた聞法道場として、また広島の地におけるご門徒の帰依処となるよう、微力ながら全力を尽くしてまいり所存です。

何とぞ格別のご指導とご厚誼を賜りますようお願い申しあげます。

8月21日(土) 真宗基礎講座

-親鸞の生き方にたずねて-

(第3シーズン)

【講 師】三明智彰 先生(九州大谷短期大学学長)

【日 程】毎回 13:30~16:00 【会 費】500円

〈親鸞聖人のご生涯をたずね、浄土真宗の教えの基礎を学ぶ講座です。〉



9月24日(金) 秋彼岸会



【講 師】泉原寛康 先生(広島市 法正寺住職)

【日 程】14:00~勤行と法話 16:30 終了予定

〈彼岸はさとりの世界。昼と夜の時間が等しくなるお彼岸の時節に、かたよりのない仏様の教えを聞く法会です。〉

毎月5日 定例法話(ご今日の集い)

【講 師】県内僧侶(月替わり) 【日 程】14:00~勤行と法話(15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。〉

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等をしてコロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。

法座・講座等のお知らせ

【編集室より】

テレビや新聞などで新型コロナウィルスのワクチンに関する情報が飛び交っています。そういった中、ワクチンに関してデマの情報がSNSで拡大しているとラジオが伝えています。私はかつての事件記者時代に習った「裏どり」のことを思い出します。スリードと正確性が求められる事件捜査報道の際に最も大切なのが裏付けをとることです。例えば殺人事件の捜査報道では直接の担当の一課だけでなく詐欺などの知能犯罪を担当する二課や窃盗犯罪を担当する三課あるいは暴力団担当の四課など複数のサイドから裏をとることを教わりました。あれから數十年。私が今、「究極の裏どり」と思うのが、「阿弥陀経」です。淨土は素晴らしい世界かどうかに関して東西南北上下の主な諸仏とそれそれにガンジス河の砂の数ほどの仏が揃つて素晴らしい世界だと言っているというのはこれ以上ない究極の裏付けだからです。

それにも関わらず、ワクチンを疑い、淨土を疑う人間の煩惱の大きくて深くて果てのないことであらためて受け止めることです。

(M・M)

真宗大谷派(東本願寺)

広島別院 明信院

〒730-0044 広島市中区宝町4-16

東本願寺 広島別院

TEL 082-241-5342 (電話・FAX共通)

検索

